
君に出逢った季節

結衣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君に出逢った季節

【Nコード】

N6973A

【作者名】

結衣

【あらすじ】

平凡な毎日を送ってきた中学三年生の舞。春、同じクラスになった智に恋をする。智には年上の彼女がいた…。

ブローグ

桜の花びらが風に舞う。

通い慣れたこの桜並木でそれを眺めゆつくりと歩く。

クリーニングから返ってきたばかりの埃ひとつ付いてはいない制服で。

一片の花びらが真つ黒いブレザーの上に舞い落ちた。

手に取り、握り締め、再び開いてみる。

花びらはひらひらと空を舞っていった。

私は立ち止まり上を見上げてみる。

済みきってどこまでも青い空が見える。

さっきまで手にあった花びらは無数の花びらと交じり、

どこに行ったかわからなくなってしまった。

なんだか急に嬉しくなって私は走り出す。

新しい季節へ、

新しい今日へ、

新しい出逢いへ。

わけもなく恋の予感を感じた14の春。

あなたと出逢えた14の春。

第一話：始まりの朝

始業式とかの日って普段より遅く始まるのになぜか

普段より早く起きてしまう。

性格なのかなあ、心配性で神経質。

そのくせO型。血液型占いなんて信じてやらない。

こんな自分って好きじゃない。

そんなことを思いながら眠りについたのが昨日。

そして今日。目が覚め時計を見るとAM08:37…。

まだそんな時間か、もう一眠りしよう、

そう思ったけれどなんだか落ち着いて眠れない。

どうしてだ？目覚めたばかりのはつきりしない頭でしばらく考える。

ああ、今日は始業式か。春休みは終わったんだ。

……ようやく気付いた。今日から学校が始まる。

家から学校まで約一時間。始業式は10時から。

ごめんなさい。私はやっぱりO型でした。

「お母さーん！なんで起こしてくれなかったのー！？」

階段を駆け下りる。

あれ、なんだか静かだな、この時間ならお母さん起きてるはずなのに。

お母さんが後ろから声をかけてきた。

「なんだっていうのよ？まだ6時半でしょ？」

え？確かにリビングの時計を見ると8時なんかになってない。

どうやら目覚まし時計が止まってただけみたい。

おかげで新学期に向けてしっかり気合入れて準備ができた。

制服のスカートも前より短くして、髪も軽く巻いて。

メイクも少ししてみた。まだ肌に馴染んでない感じだけど。

朝食を食べながらTVを見ると星座占いのコーナーだった。

血液型以上に信用できないと思いつつ、いて座は何位かなと耳を傾ける。

今日の1位はいて座のあなたです！運命の出会いがありそう。

ラッキーアイテムは切手！

なんだそりゃ、切手が幸運を呼んでくれる？

ありえないと思ったがちょうど机の隅に50円切手を見つけたので

鞆にすべりこませる。

さて、そろそろ行くかな。

時間にたっぷり余裕をもち家を出る。

電車を降り、時計を確認。時刻は9：27。

うん、間に合う。

この桜並木を抜ければ学校はすぐそこだから。

第二話：出逢いの日

AM 9：43、正門に着く。

クラス替えが発表されてる掲示板。すごい人だかり。

あそこに入り込むのか、髪くずれるじゃん。

あー嫌だ嫌だ、なんて思ってたら後ろから腕を掴まれた。

「おっはよー舞！掲示板見た？うちら同じクラスだよっ」

中一るとき仲の良かった恵理。いつも私を笑わせてくれる明るいやつ。

よかった。今年一年楽しく過ごせそうだ。

私にはクラス替えてかなり重要。

クラスメイトによって今年の運勢変わるし。

血液型より星座より信じられる占い、ってとこ。

今年の運勢、4つって感じかな。

「まじっすかー？恵理と一緒にとかかなり嬉しいんですけどー」

「うちも！親友と同じクラスって最高だし！」

掲示板を見に行かずにすんだ私は恵理と2組の教室へ向かう。
がらがら・・・

ドアを開けるとすでに大半のクラスメイトが中にいた。

出席番号順の席に鞆を置くとチャイムが鳴った。

同時くらいに担任が教室に入ってきて起立、礼。

これからの一年がどうか、長い話が始まる。

くだらねーんだよ。意味もなく爪をいじってみる。

トップコートが剥げてる。最悪だ。

左隣から手が伸びてきて机をトントンと叩いてきた。

隣り、誰だっけ？手の方向に顔を向ける。

知らない男子だ。6クラスもあると未だに知らない男子がいたりする。

「名前なんてゆーの？俺、智つつーの。よろしくねー」

名前は聞いたことある。

確か、去年かつこいいとか皆が騒いでた・・・

顔をよく見てみる。え、えええ？かなりかつこいい。

「あ、はい。よろしくお願いします。え、えと舞です。」

動揺して上手く話せない。

「もーそんな緊張しないで！舞ちゃん！俺そんな恐く見えるー？」

「え、や、そんなことないよ。考え事してたから驚いちゃって。

「ごめんね、智くん。」

今度は普通に返事できた。

「よかったー、早速嫌われたかと思ったし。あ、智でいいから。」

「それではホールの方に向かってー・・・」

担任の話が終わったようだ。

それから始業式が終わって家に帰った。

夜ベッドに転がって今日一日のことを思い出す。

智、かつこよかったなあ。

そんなことを考えながらそのまま眠ってしまった。

こんななんでもない一日が智と出逢った日。

私にとって大切な大切な日。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6973a/>

君に出逢った季節

2010年11月20日02時33分発行